

あまぐり通信



天津日本人学校
教諭 寺沢 圭司
2015年8月
第2号

天津の生活を紹介します。

久しぶりに通信を書きます。今回は天津の生活についてまとめてみました。

<交通機関>

天津市は約1500万人が住んでいますので、公共機関が充実しています。

バスは、時刻表は存在せず、6時から22時の間であれば、遅くても20分以内で到着します。そして、初乗りは1.9元（日本円で約40円）で、どこまで行っても同じ料金というのがうれしいです。

タクシーは、初乗りが9元（日本円で約180円）です。車を持たない私たちにとって、身近な乗り物の1つといえます。

地下鉄は、年々運行範囲を拡大していて、とても便利になってきています。バス同様に、どこまで行っても同じ料金で、価格もバスと同じです。

最近では、日本で言う「SUICA」のようなカードが登場し、バス、タクシー、地下鉄で使えるようになりました。このカードで買い物もできてしまうのですから、日本と同じような生活ができます。

新幹線は、北京まで片道49元（2等席、日本円で980円）で行けます。天津～北京間は、北海道で言うならば札幌～旭川間といったところでしょうか。

そして、現在では天津空港からの地下鉄ができ、直接天津中心部まで行けるようになりました。

天津市内に住んでいる分には、この格安の公共機関は大変便利です。もし、天津に来られる際には、いろいろな乗り物に乗ってみてはいかがでしょうか。



<お買い物>



今までは、日本の調味料が少なく、運良く売っていても、賞味期限が近いということがよくありました。しかし現在では、2年前に赴任した時に比べて、日本製品が多くなってきた感があります。

赴任した時に一番ほしかったものが、カレールウでした。日本では、スーパーマーケットのセールで98円で購入していましたが、こちらではカレールウが中国テイストで加工されて、9元（180円）で売られています。中国テイストといえば、日本人が苦手な「キラースパイス」が入っています。赴任した当初は、このカレールウを使って食べていましたが、現在では日本から輸入されたカレールウが増えたので、こちらを食べています。ちなみにお値段は、30元（600円）から40元（800円）です。



天津で食材を買うとしたら、①イオンのようなスーパーマーケット、②野菜市場、③お取り寄せといった方法があります。

①については、同じ場所でまとめて購入ができ、値段が書いてあるという点で、赴任当初は重宝していました。しかし、野菜などの生鮮食品の鮮度が悪いため、生鮮食品以外のものを買う時に活用しています。

②については、市場内にたくさんの店が集まっているので、お気に入りのお店を見つけて、その店員と言い値で買い物をしていきます。生鮮食品の鮮度はスーパーマーケットに比べると良く、さらに安いです。

③については、インターネットで食料品を扱う業者からお取り寄せをします。ここでは、無公害野菜や正しく処理された肉・魚が売られています。最近では、このお取り寄せの方法で買い物をする方が増えています。

＜中国版ショッピングモール 淘宝城＞



「淘宝」と聞けば、インターネットショッピングを想像しますが、中国では日常生活にとけ込む「ショッピング街」を指します。「淘」は探す、「宝」は宝物という意味をそれぞれ持っており、中国各地にある「淘宝」は人々をわくわくさせるものなのかもしれません。

「淘宝」は、ホテルや野菜市場、駅に隣接していることが多く、規模もコンビニ3件分の広さのものから、札幌ステラプレイスぐらいのものなど、まちまちです。

「淘宝街」「淘宝城」とよく呼ばれるショッピング街に入ると、服、靴、かばん、おもちゃ、おかしなど、たくさんの「お宝」が売られています。値段はもちろん書いてなく、言い値で値段交渉をしていきます。

例えば、子どもの肌着であれば5枚で15元（300円）、男性用靴下であれば5足で10元（200円）など、安くてたくさん買えてしまうのが面白いです。

イオンなどの外資系スーパーマーケットが多く進出していますが、中国の人は声をそろえて「很贵！（高いよ!）」と言います。私も「淘宝」ファンの一人です。

＜おわりに＞

ショッピングをするにあたって、中国語は必須です。しかし、いろいろなことを言いながら買い物をするのは、とても楽しい時間です。日本に来る中国人の方々も、そういったショッピングを楽しみにしているのかもしれないね。